

神川町版スーパー・シティプロジェクト ～コンパクトな町でフレキシブルに暮らす～ 地域まちづくり計画

令和5年6月
(令和6年9月更新)
神川町

取組の概要

まちづくりにおける課題

人口の減少や少子高齢化の中で、地域の商店や医療機関は減少し、新型コロナウイルスの影響も加わり観光事業や地域コミュニティも縮小傾向にある。

また、JR八高線丹荘駅を有し、本庄駅と神泉総合支所をつなぐ路線バスが運行されているものの、町内・外への移動手段は車中心であり、免許返納による移動手段喪失後の対応が求められる。

さらに、近年の大規模災害や、一人暮らし高齢者の増加に対応した安心・安全な町づくりが必要である。

まちづくりの方向性

町内それぞれの立地に適した地域拠点の形成と町内外の交流促進により、交流人口の増加による賑わいの創出を目指す。

また、物流や拠点間を人・物・情報がフレキシブルに移動できる環境を実現することで、車に頼らなくても自由に移動できる公共交通網の構築を図っていく。

さらに、デジタル技術等を活用し、大規模災害への備えや、一人暮らし高齢者の増加に対応した安心・安全な暮らしの確保を目指す。

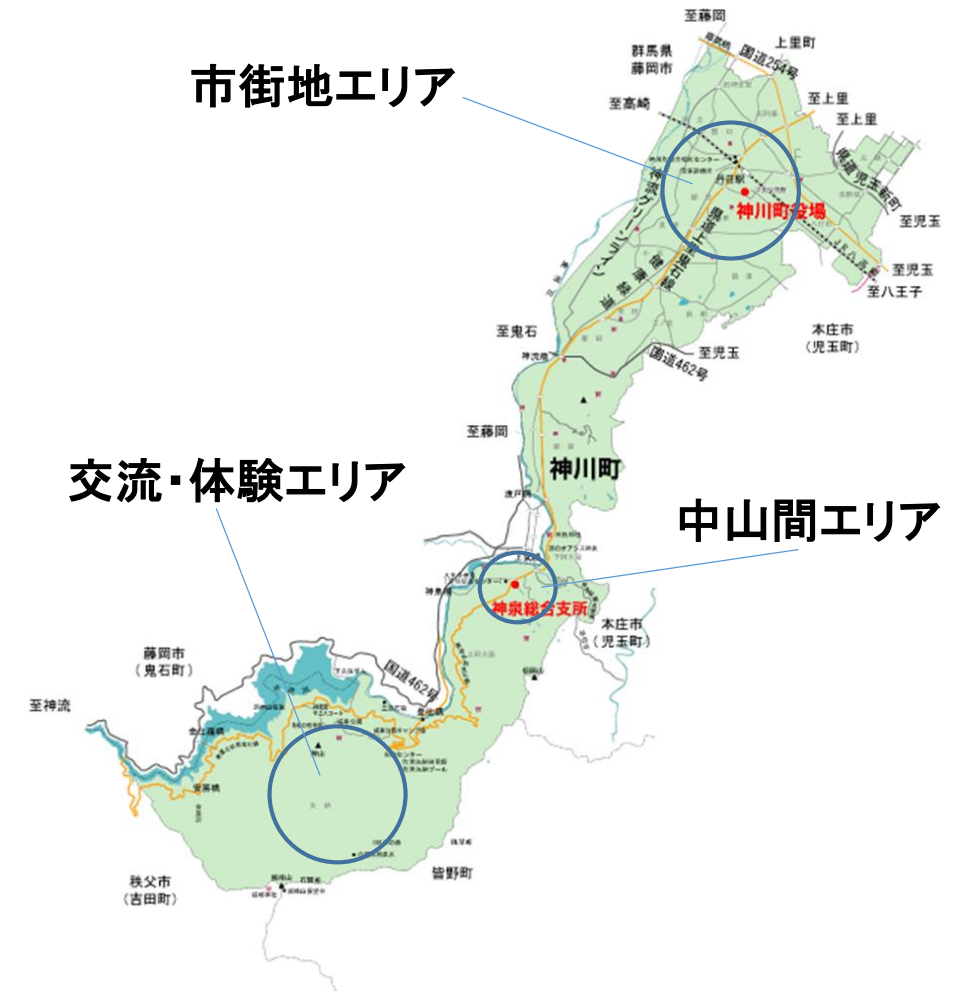
他の計画における位置付け

- ・第2次神川町総合計画
- ・第2期神川町総合戦略
- ・神川町公共施設等総合管理計画
- ・神川町公共交通計画
- ・神川町立地適正化計画(R6策定予定) 他

対象地域の位置及び区域

神川町全域

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

神川町の人口は、平成12年の15,197人をピークに減少を続けており、令和2年には13,359人となっている。一方、世帯数では、平成14年に4,371世帯であったが、令和2年には核家族化等の影響から5,723世帯となり、独居高齢者等が増加している。

また、年齢区分別人口を見ると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)が占める割合が大きく減少する一方で、老年人口(65歳以上)が占める割合が年々増加している。

国立社会保障・人口問題研究所における人口推計を見ると、令和22年には総人口が10,790人となる見込みであり、高齢化率は令和2年の33.9%から46.9%まで増加し、生産年齢人口の割合45.7%を上回る見込みである。

開発の状況

神川町は、宅地が役場及び丹荘駅、幹線道路周辺を中心に分布している。

田畑は約23%を占めており、JR八高線北側の地区や神流川沿いに多く見られる。

工業では、1市2町に跨る児玉工業団地、町中央部のうめみの工業団地があり、企業が多く立地している。

神泉地区では神泉支所を中心に住宅や学校などがある一方で、山間部では集落の維持も難しくなっており、過疎地域に指定されている。

地域交通の状況

JR八高線の丹荘駅がある。また、JR高崎線本庄駅と、神泉総合支所を結ぶ路線バスが運行され、神泉地区では町営バスの運行も行っているが、町全体としては交通空白地帯が多くなっている。

道路網は、国道254号、462号及び県道5路線があり、近隣には、関越自動車道や上信越自動車道が通り、本庄・児玉インターチェンジや上里スマートインターチェンジが近く比較的利便性は高くなっている。

このような状況の中で、町民の多くが、移動手段として車を用いており、免許返納後の高齢者などの交通弱者の移動手段確保が求められている。

地域資源

神川町は南北に細く伸びた地形になっており、急峻な山間部となっている南部(神泉地区)から、北上するにつれ平坦な地域が広がり、多様な地形を形成している。

南部では、三波石峡、冬桜などの自然資源をはじめ下久保ダム(神流湖)や豊かな森林が広がっている。また、町の西側には神流川も流れ、貴重な環境資源を有している。

北部には、広大な農地を有し、特産品である梨や野菜の生産が行われる一方で、工業団地も有している。

また、町内には、2箇所の温泉施設やフィッシングパーク等のレジャースポットがある。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

町内それぞれの立地に適した地域拠点の形成と、拠点間を人・物・情報がフレキシブルに移動できる環境を実現することで、町民の安心・安全な暮らしの確保と町内外の交流人口の増加による賑わいの創出を目指す。

～ コンパクトな町で
フレキシブルな暮らしを実現 ～

推進体制

まちづくりのコンセプトを実現するため、産学官民が連携して着実にプロジェクトを推進していく。

【連携事業者等】

神川町商工会、神川町観光協会、(株)温泉道場、
セイノーホールディングス(株)、(株)エアロネクスト、
マルキュー(株)、日本薬科大学、(株)篠原商店、
児玉警察署、埼玉県 他

事業全体の概要

【コンパクト】地域拠点の形成と町内外の交流促進

- ・総合福祉センターと保健センターの統合等による地域包括ケア拠点の整備(市街地エリア)
- ・幼・保・小・中学校の集約化による教育拠点の整備(市街地エリア)
- ・新支所を拠点とした各種イベント実施等による地域交流促進(中山間エリア)
- ・民間活力によるフィッシングパークの運営や未利用地への新たな観光資源の創出等による観光振興(交流・体験エリア)

【スマート】デジタル技術等を活用した日常生活等の総合支援

- ・ドローン輸送や貨客混載などを組み合わせたスマート物流の導入(買い物支援)
- ・デジタル技術を活用した子育て相談や健康維持等の支援
- ・デマンド交通導入などを通じた自由に移動できる公共交通網の構築

【レジリエント】デジタル技術等を活用した安心・安全の確保

- ・ドローンによる災害状況把握や物資輸送の実現
- ・デジタル技術を活用した高齢者見守り支援
- ・電気自動車の促進等による災害時のエネルギー確保

計画図

神川町版スーパーシティプロジェクト ～コンパクトな町でフレキシブルに暮らす～



デジタル技術を活用した
「子育て相談」、「健康維持等の支援」
「高齢者の見守り」「獣害対策」など

市街地エリア

地域包括ケア拠点の整備



ドローン等を活用したスマート物流
「日用品等の輸送」
「災害時の物資輸送」



自由に移動できる公共交通網の構築
「デマンドタクシー」の導入など

拠点間を人・物・情報がフレキシブル
に移動できる環境を実現

中山間エリア

新支所の整備と地域交流促進機能の拡充



交流・体験エリア

企業連携による観光資源の再編・パーク化



電気自動車の促進等による
災害時のエネルギー確保



町民の安心・安全な暮らしの確保と町内外の交流人口の増加

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考
			R6	R7	R8	R9	R10	
神川幼稚園と青柳保育所の統合	町	神川幼稚園と青柳保育所を統合し、神川幼稚園の敷地に認定こども園を設置	整備		稼働			市街地エリアへの暮らしに必要な機能の集約化
町内小学校及び中学校の統合	町	町内小学校4校を中学校の敷地に統合し、小中一貫校を設置 統合後、遠方となる児童への通学支援策について検討	小中一貫校のコンセプトや施設機能・規模・跡地活用などの検討 (R5～の10年間を目途に小学校4校を1校に統合予定)					
			通学支援策の検討					
地域包括ケア拠点の整備	町	総合福祉センターに保健センター機能を統合し、成人から高齢者世代への健康支援等を一貫して実施する拠点整備	稼働					
地域包括ケア拠点を活用した事業実施	町	地域包括ケア拠点を活用した効果的な事業展開	新規事業の実施や事業の見直しを実施					

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考
			R6	R7	R8	R9	R10	
新神泉総合支所の整備	町	多目的交流施設の敷地内に神泉総合支所を移転し、交通・交流の拠点整備	新支所稼働					過疎地域持続的発展支援交付金
			支所機能の充実					
新神泉総合支所を拠点とした交流促進	町	新神泉総合支所を拠点とした交流促進事業の展開	交流イベント等の実施や新規事業の検討					
企業連携による観光資源の再編・パーク化	町・民間企業	指定管理や町主体の運営では経営維持が困難となった観光資源の魅力化を進めるため、民間企業と連携してブランディング等を実施	フィッシングパークの民間運営					
			下久保コテージ跡地の民間活用					
			冬桜の宿の民間活用					
			民間による新たな観光地の創出					

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	最新値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
共通	新しい人の流れをつくる (観光入込客数)	53万人(R3年度)	69万人(R5年度)	70万人(R9年度)	「第2次神川町総合計画」及び「第2期神川町総合戦略」の指標に基づく
コンパクト	介護予防教室参加者数	3,282人(R3年度)	6,271人(R5年度)	7,000人(R9年度)	「第2次神川町総合計画」の目指す指標に基づく
スマート	子育てアプリ登録者数	0人(R3年度)	268人(R5年度)	300人(R9年度)	「デジタル田園都市国家構想の推進に資する事業」に基づく
レジリエント	電気自動車の導入	3台(R3年度)	3台(R5年度)	6台(R9年度)	公用車の更新時に随時導入を検討